

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800528		
法人名	社会福祉法人 三井福祉会		
事業所名	ナイスケア「榿の木」		
所在地	山梨県甲斐市長塚157-3		
自己評価作成日	令和3年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が穏やかな毎日を過ごせるよう、施設でありながら自宅を思わせるような雰囲気となっており、常に清潔な環境を心掛けております。利用者様の楽しみにされている食事も季節の食材を取り入れたものや、食事作りイベントなども実施しております。コロナ禍で外出や家族の面会が制限される中、利用者様が施設内で楽しく、生き生きとした生活が送れるよう支援しております。  
介護職員15名のうち10名が介護福祉士の資格保持者で、事業所全体で職員のスキルアップを推進しております。また、勤続年数平均8、2年と比較的離職率が低い事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、甲府駅北口に続く大通りに面し交通量も多いが、事業所の前には、生垣があり騒音を感じさせない。裏庭には、2本の榿の木の大樹があり、閑静な環境にある。2ユニットは、回廊式になっているので、利用者は常に交流が出来る。管理者を始め職員は、重度の利用者の入浴や排泄についても情報を共有し協力して取り組んでいる。、利用者・家族からコロナ対策をしっかり取り信頼されている。管理者、利用者の担当職員は、日常のケアの中で、本人が、この地域でどう生きたいか。意識し、それを支えるために良いケアのあり方について、日々取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <b>現状は(参考項目:2,20)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <b>現状は(参考項目:49)</b>	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「樫の木」

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は掲示してある。理念のほかに各利用者に応じた年間目標を掲げ、サービス向上に努めている。	運営理念は目につく場所に掲示してある。理念のほかに各利用者の年間目標を立て、職員間で共有し、目標に向け実践している。	職員は利用者2名を担当し、日常生活から年間目標を立て、支援経過を記録している。年度末にレポートを提出し振り返りをしている。その結果を踏まえて、新年度の目標を立て、利用者、一人ひとりのニーズに合った理念を作り、管理者、職員は、日々の中で話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のドラッグストアを利用し、店員とも顔馴染み、関わりを持っている。今年はコロナ禍の為、地域行事が中止となったが例年は準備段階から参加している。地域住民のご厚意の大根掘りも中止となったが収穫した大根を届けてくれた。	近隣のドラッグストアを利用し、店員とも顔馴染み、関わりを持っている。今年はコロナ禍の為、地域行事が中止となったが例年は準備段階から参加している。地域住民のご厚意の大根掘りも中止となったが収穫した大根を届けてくれた。	自治会に入会している。例年では、地域の行事がある時には、回覧版が回ってくるので利用者と参加していた。今期は、コロナ禍で中止となり、地域との交流は殆ど出来ない状態であったが、これ迄の間柄で、収穫した大根を事業所に届けてくれ、地域とのつながりが維持できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で地域との交流を見送っていた為、活かすことは出来なかった。	新型コロナウイルスの影響で地域との交流を見送っていた為、活かすことは出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時、インシデント報告を行い、事故の内容説明、事故原因、対応、結果について報告をしている。また利用者の重度化に対し、業務変更や業務移行など含め報告を行い、サービス向上を目指している。	年間行事の報告、サービス提供や支援についての報告を行っている。また、運営推進会議にて外出困難重度利用者の為の月に一度のボランティア来所を相談、実施していたが今年はコロナの影響で実施できなかった。	運営推進会議は、2か月に1回行っている。今期は、コロナの影響で市担当者の出席はなく、事業所は山梨県の感染状況を見ながら、ソーシャルディスタンスの環境で行っている。役所には、議事録を届けている。サービス評価の報告を行い、運営推進会議と結び付けた取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに甲斐市役所長寿推進課課長が参加している。今年はコロナの為、運営推進会議に課長が出席することはできず、サービスについての疑問点などがあれば直接市役所に出向く、または電話にて相談を行っている。	運営推進会議に参加できない甲斐市役所長寿推進課課長には都度、議事録を届けている。サービスについての疑問点や相談は直接、甲斐市役所に出向く、または電話にて相談を行っている。	運営推進会議開催について、コロナ禍のためどのように実施するのかを相談した。市役所担当課に運営推進会議の議事録を届け、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、職員への周知と月に一回の自己チェックの提出を行い、意識の向上に取り組んでおり、また成果も出ている。	身体拘束委員会を中心に、月に一回自己チェックの提出、2ヶ月に1回身体拘束委員会会議を開催し、職員会議で報告を含め、ディスカッションを行い、職員の意識を高めるよう努めている。	身体拘束について職員自身、自己チェック(様式あり)し、月1回提出し反省して次につなげている。利用者一人ひとり、その日の気分や状況に応じて、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施している。入浴時や更衣時に身体をチェックを行い、防止に努めている。職員の利用者に対する不適切と思われるような声掛けには職員間で注意し合える関係作りをしている。	施設内研修で虐待やスピーチロックについてのディスカッションを行っている。身体拘束委員会を中心に問題点の改善に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それを活用できるよう支援している	利用者の一名が成年後見制度を活用するにあたり、施設内研修を実施した。後見人とのやり取りについては管理者が行っており、連絡事項などは管理者より報告がされている。	職員会議での研修を実施。成年後見制度を利用している利用者の後見人とのやり取り等、職員へも報告を行う。施設内研修で理解できない事等、理解できない事は自ら学ぶ事も勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等は主に管理者が行っている。入居日には担当職員が挨拶をし、利用者や家族の不安や疑問点、心配な点などしっかりと聞く体制をとっている。改定時の重要事項説明は管理者より職員へ説明があり、職員でも対応ができるようにしている。	契約等は主に管理者が行っている。入居日には担当職員が挨拶をし、利用者や家族の不安や疑問点、心配な点などしっかりと聞く体制をとっている。改定時の重要事項説明は管理者より職員へ説明があり、職員でも対応ができるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「樫の木」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱は設置しているが利用されていない。ご家族からの要望や意見に関しては面会時のやりとりで聞かれる事が多い。要望等については職員と共有し、支援に反映するよう努め、上がった意見は運営推進会議で伝える事がある。	玄関に意見箱は設置しているが利用されていない。ご家族からの要望や意見に関しては面会時のやりとりで聞かれる事が多い。要望等については職員と共有し、支援に反映するよう努め、上がった意見は運営推進会議で伝える事がある。	コロナ禍で家族が面会出来ないで、日常生活状況を知らせて欲しい、との意見があり、面会時や電話連絡の際に生活状況を極力伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての意見は出た事はない。職員が管理者に意見を言いやすい環境は構築されており、随時繁栄してくれている。	管理者は職員の不安や要望に対して、話を聞き、直ぐに対応してくれている。	管理者は、職員と日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。食器乾燥機・炊飯器・ドライヤー等日常ケアするために必要な物の要望があり、購入して反映している。入浴時に2人介助が必要な時は、職員配置を工夫して意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件を汲んでシフト作成してくれている。また、突然の欠勤等にも柔軟に対応してくれている。勤務希望、有休、勤務変更も柔軟に対応している。資格手当や昇給もあり、やりがいに繋がっている。	行事日の職員配置増員の配慮、残業がないよう業務の見直しを行ってきている。月に1回程、必ず有休をいれてくれたり、体調不良や傷病に対しても柔軟に対応してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	例年は研修の参加があるが、今年はコロナの影響で実施できず。月に一回の施設内研修を設け、職員のスキルアップに繋げてきている。また、資格取得を目指す職員にはシフトの調整を行い支援してくれている。	今年度はコロナの影響により、外部の研修会はなかった。毎月の施設内研修ではテーマを決め、学習する機会を設けている。資格取得を目指す職員にはシフトの調整を行い支援してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年、外部の研修に職員をまんべんなく参加させているが、今年はコロナの影響で実施できず。	例年、外部の研修に職員をまんべんなく参加させているが、今年はコロナの影響で実施できず。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が本人や家族と直接面談を行い、聞き取りや相談を受けている。面談後、聞き取り等をまとめ、職員に周知してくれている。また、ご家族との協力体制を作り、本人が不安なく施設生活が送れるよう努めている。	管理者が本人や家族と直接面談を行い、聞き取りや相談を受けている。面談後、聞き取り等をまとめ、職員に周知してくれている。また、ご家族との協力体制を作り、本人が不安なく施設生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时や面談時に管理者が要望等を確認。入居後はリーダー、担当職員が中心となり日常の様子を報告しながらケアの要望、意見等を訊ねている。	見学时や面談時に管理者が要望等を確認。入居後はリーダー、担当職員が中心となり日常の様子を報告しながらケアの要望、意見等を訊ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が面接時に、本人やご家族に心配事や要望等を確認。アセスメントを行いケアプランに反映し、ケアの統一性を図っている。	管理者が面接時に、本人やご家族に心配事や要望等を確認。アセスメントを行いケアプランに反映し、ケアの統一性を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を見極め、日常の清掃や洗濯、食事作りを職員と一緒にしている。利用者の自主性に任せたり、職員からお願いをし、一方的な押し付けは行っていない。	利用者の特性やADLを見極め、清掃や洗濯たみなど職員と一緒にしている。本人の意向を確認し、無理強いはせず協力を得ている。		



自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「樫の木」

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が制限されている為、主に電話にて日常の様子を連絡。本人からの家族に電話を掛けたいとの要望については夜中以外、その都度対応している。面会でできず心配している家族に対し、管理者が携帯電話でビデオ撮影し、家族に送っている。	面会が制限されている為、主に電話にて日常の様子を連絡している。体調の変化等があれば、主治医、本人、ご家族等と担当者会議を開催し、家族の意向も確認しながら本人にとって最良の方法を検討しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ができない今、親しい友人からの手紙には職員がついて、手紙の返事を書き、郵送している。施設入居後は馴染みの場所や人との関係は途切れてしまうケースが多い。	面会ができない今、親しい友人からの手紙には職員がついて、手紙の返事を書き、郵送している。施設入居後は馴染みの場所や人との関係は途切れてしまうケースが多い。	面会が出来ない状況なので、馴染みの友人に職員と一緒に手紙を書いて出したり、電話の取次ぎ支援を行っている。また、家族の協力を得て、墓参りに行き継続的な交流が出来るように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、共有スペースでの席配置を工夫している。問題が生じた場合は一時的に対象利用者をその場から離すが、孤立しないようユニットチームで対応に努めている。	利用者同士の相性を把握し、共有スペースでの席配置を工夫している。利用者を集め、レクリエーションを行う際、重度利用者も交えたり、耳の遠い利用者には職員が間に入り、関りが持てるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移行したり、施設で最期を迎えた利用者のご家族が契約を終了したあとでも果物を届けてくれたり、施設入所を希望している知人を紹介したりと良い関係が続いている。	知人の相談を受けて欲しい等、退居後も連絡を取る場合もあったり、庭で採れた柿を施設に援助してくれるご家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向がある場合は、業務を見ながら、若しくは業務を移行し、できる限り対応している。発語のない利用者のノンバーバルサインを見逃さないよう努めている。今年はコロナの影響で外出を伴う買い物の意向を実現させる事ができなかった。	希望や意向がある場合は、業務を見ながら、若しくは業務を移行し、できる限り対応している。発語のない利用者のノンバーバルサインを見逃さないよう努めている。今年はコロナの影響で外出を伴う買い物の意向を実現させる事ができなかった。	一人ひとりの思い・希望・意向については、入居時や面会時に家族から把握して対応している。利用者からも情報を得て、ミニトマトを育てたいとの希望で毎年、天気予報図を利用して水やりを育て、楽しみの一つとしている。収穫したトマトは利用者と一緒に食べている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報を職員に周知している。可能な限り馴染みの暮らし方や生活習慣を継続できるよう支援している。	管理者が面接で得た情報を全職員に周知している。また、入居後もご家族からの情報等も職員が共有できるよう周知している。基本、生活習慣は継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録、引継ぎを通し、情報の共有を行っている。心身の状態に変化等見られた場合は管理者へ報告。必要に応じて主治医にも報告し、指示を受ける。有する力を見極め、できる事が継続できるよう必要以上の手出しは行わず、見守っている。	個別記録、引継ぎを通し、情報の共有を行っている。心身の状態に変化等見られた場合は管理者へ報告。必要に応じて主治医にも報告し、指示を受ける。有する力を見極め、できる事が継続できるよう必要以上の手出しは行わず、見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状態の変化を職員から情報を得たり、主治医の意見やご家族の意向を踏まえケアプランに反映。モニタリングを行い、達成しやすい目標を設定している。	利用者の発言や意向を確認。併せて主治医や訪問看護師の多職種の指示もいただき、プランに反映している。コロナの影響で訪問マッサージを受けることができなくなってしまったが、電話にて状態の報告等を行っている。	利用者や家族の意見、担当職員の関わりや記録などで状態を把握して、介護計画に反映するようにしている。アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、設定期間毎に見直している。変化が生じた場合は、臨機応変に見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、引継ぎを活用し、職員間での情報を共有しているが、記録が簡潔過ぎる事がある。状況の変化を正しく認識する為、明確な記録を残す重要性について職員会議で周知している。	個別記録、引継ぎを活用し、職員間での情報を共有しているが、記録が簡潔過ぎる事がある。状況の変化を正しく認識する為、明確な記録を残す重要性について職員会議で周知している。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	ナイスケア「樫の木」	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の個々の意向に対応しようと努めているが、全ては行えていない。基本、往診以外の受診はご家族対応であるが、ご家族の都合や就労等に応じて、管理者や職員が対応している。	利用者の個々の意向に対応しようと努めているが、全ては行えていない。基本、往診以外の受診はご家族対応であるが、ご家族の都合や就労等に応じて、管理者や職員が対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、地域行事の参加は例年行っていたが、今年はコロナの影響により地域の方々と交流する機会が持てなかった。	地域のボランティア、地域行事の参加は例年行っていたが、今年はコロナの影響により地域の方々と交流する機会が持てなかった。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診を継続している利用者もいる。基本、往診以外の受診はご家族対応となっているが、状況に応じて施設で対応する場合もある。主治医への連絡や伝えたい内容は手紙を用意し、適切な情報提供を行っている。	入居前からのかかりつけ医へ受診している。基本、往診以外は家族対応であるが、一名の利用者は週2回の受診(注射)が必要で、ご家族就労の為、施設で対応。往診時以外でも往診医とMCSでやり取りができ、緊急時の対応も得られる。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は、基本的に家族同行の受診となっているため、書面を渡し情報を共有している。家族が都合悪い時は、職員が対応している。往診医の他、歯科医往診時には、事業所で適切な医療が受けられるように支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師の配置はない。利用者の体調変化時は往診医へMCSで報告行い、指示をもらっている。	施設看護師の配置はない。利用者の体調変化時は往診医へMCSで報告行い、指示をもらっている。褥瘡のある利用者は訪問看護と契約を行い、連携をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、施設での生活状況、内服内容等の報告を管理者が行っている。今年は入院中の面会は出来なかったが、医療連携室担当者や病棟看護師と電話にて情報を共有している。	入院時、施設での生活状況、内服内容等の報告を管理者が行っている。今年は入院中の面会は出来なかったが、医療連携室担当者や病棟看護師と電話にて情報を共有している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より、看取り期移行の指示が出た時点でご家族とのカンファレンスを開催。カンファレンスではご家族の意向も重視されるなど、チームにて看取り期の在り方を考えている。カンファレンスは一回にとどまらず、開催される。主治医の指示が必要であれば特別指示書発行され、訪問看護が入る。	主治医より、看取り期移行の指示が出た時点でご家族とのカンファレンスを開催。カンファレンスではご家族の意向も重視されるなど、チームにて看取り期の在り方を考えている。カンファレンスは一回にとどまらず、開催される。主治医の指示が必要であれば特別指示書発行され、訪問看護が入る。	入居時に家族には、重度化した際の話し合いをしている。食事が摂取出来ない・寝ている時間が長い等・その都度カンファレンスを行い、医師の指導を受けて連携を図りながらチームで支援している。家族の希望によっては、訪問看護も取り入れ安心して、納得した最期を迎えられる様に随時意志を確認し取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修では、急変や事故発生時の訓練を行っている。消防署より配布された救急搬送時の書類のDNAR欄は入居時にご家族の意向を確認している。	今年度はコロナの影響により外部からAEDの講師を招いての研修ができなかった。施設内研修にて学ぶ機会を設けている。防火管理者を中心に事故発生時の対応等を学ぶ機会を定期的に行っていくたい。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者を交えた避難訓練の実施や夜間を想定した人員配置の薄い時間の訓練も取り入れている。運営推進会議を通して、地域の協力が得られるよう伝えている。また、消防署査察時にはアドバイスをもらう等、訓練に役立っている。	定期的に利用者を交えた避難訓練の実施や夜間を想定した人員配置の薄い時間の訓練も取り入れている。運営推進会議を通して、地域の協力が得られるよう伝えている。また、消防署査察時にはアドバイスをもらう等、訓練に役立っている。	毎月テーマがあり、避難時、離園利用者の搜索訓練でエリアを決めて探す等、具体的に実践している。今年度は、火災訓練で消防署へ計画書を提出して消防署の協力を得て、火災通報訓練を行った。また、振り返りを行い次のステップへとしている。災害時に備えた備蓄品等の準備もある。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心、自尊心を傷つけないよう声掛けにも配慮している。自分でパット交換が行える利用者場合はトイレに古新聞、ゴミ箱を設置している。	羞恥心、自尊心を傷つけないよう声掛けに配慮している。排泄動作に介助を要する利用者がトイレ内から職員を呼ばなくても良いようにトイレ内に鈴を設置してある。	トイレへの誘導では、自尊心を傷つけない様に声掛けを工夫している。入室の際は、必ずノックをして、プライバシー確保を徹底している。また、入浴準備では、好きな洋服を選んで着る様に自己決定しやすい言葉かけをしている。

自己評価および外部評価結果		事業所名	ナイスケア「樫の木」	外部評価		
自己	外部	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
		項目	ユニット名(東ユニット)			ユニット名(西ユニット)
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間では利用者に飲みたい飲み物を確認して提供している。入浴準備では衣類が自分で選べるよう配慮している。利用者によっては二択の選択や物を見てから自己決定ができるような働きかけを行っている。	自己決定の選択肢を与えられるようにしているが、状況によっては職員が決めてしまう事もある。自分の感情がうまく伝えられない利用者は職員の声掛けて表情を汲み取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの声掛けは行いが、参加するかは本人に任せている。レクの内容にそぐわない場合は無理強いを行わないようにしている。日常的な会話で本人の意向を訊ねるような声掛けをするように心がけている。	重度利用者や多動利用者の増加に伴い、なかなか一人ひとりのペースに伝えられなくなっている。職員配置が厚くなる時間帯に支援を試みるも、希望に沿える事に限りがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カットを依頼。希望する利用者には近隣のドラッグストアで染料を購入し、毛染めを実施。また、利用者がこれまで好んで使用していた化粧品等があれば代行して購入できるようにしている。	自己決定ができる利用者には衣類を選んでもらっている。起床時の整容や入浴後の身だしなみを整えている。定期的に訪問カットを依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等を行いながら、食事意欲の向上に努めている。片付けも利用者が自発的に行ってくれるような雰囲気が出てきている。また、字を書くことが好きな利用者が毎晩、翌日のメニューボードを書いてくれている。	調理が可能な利用者には食事作りに参加してもらっている。刻み食、ミキサー食と利用者の状態に応じて調理形態を工夫している。ミキサー食の場合、見た目よく小鉢に分ける等対応している。	利用者から食事メニューの評判や残食を確認し、係りの職員が献立を作っている。入居時に、アレルギーや禁食などの情報を把握して、危険の無い様一人ひとりに合わせて対応している。コロナの影響で外食は出来なかったが、行事・季節・正月等、事業所で職員と一緒に作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、水分摂取量の記録をしている。低栄養な利用者にはエンシュアが処方され、処方通りに提供できている。自発的に水分摂取量が少ない利用者に対し、声掛けを実施している。	毎食の残食チェックを行っている。低栄養の利用者の場合、摂取量のトータルカロリーを計算し、主治医に報告行う。主治医より処方されたエンシュアも提供し、栄養状態の改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な利用者には仕上げ磨きを行っている。義歯を使用している利用者の場合、夕食後に預かりポリドント使用し、消毒をしている。	毎食後、口腔ケアを実施。利用者の口腔内環境に応じた歯ブラシや口腔ケアティッシュを使用している。義歯使用利用者は夕食後、預かりポリドント使用し、消毒をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為、毎日の下肢運動を取り入れ、個々の状態や習慣に合わせて、トイレの声掛けやパット確認を行っている。声掛けに拒否がある利用者には食前の手洗い前や行動時にさりげなく誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	重度利用者は時間でパット確認を行っている。自身で排泄を訴えられない利用者場合は、仕草や表情を汲み取り誘導を実施。パルーン留置利用者の時間毎の尿廃棄を行い、尿の色や浮遊物の確認も併せておこなっている。	トイレでの排泄を可能にするために、本人の生活リズムに添った支援と使いやすいトイレの整備に努めている。また、一人ひとりのサインを全職員が把握し、あからさまな誘導ではなく、声掛けを工夫している。完全自立の利用者がいて、生きる意欲や自信の回復の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に朝食時に乳酸菌飲料を取り入れたり、主治医の指示に基づき、投薬でのコントロールを行っている。個々の状態に応じては排便の記録をしている。	排便チェック表を使用し、職員が利用者の排便状況の把握に努め、適宜、緩下剤を使用している。水分摂取の促しや食物繊維が摂れるようメニューを作成している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めず、本人の希望も聞き、日付けの変更にも対応している	定期的に入浴を実施している。一番浴を希望する利用者がいたりバランスよく調整している。また、本人の希望も聞き、日付けの変更にも対応している。	入浴チェック表を使用し、職員は入浴状況を共有し、調整している。重度利用者で職員2人体制での入浴者に関しては、職員が都合で時間を決めている。	利用者のその日の希望を確認し対応している。入浴を拒む利用者には、日にちを変えたり、言葉かけの工夫をし対応している。また、着替えの洋服も自分で選んで、入浴を生活の一部としている。冬至では、ゆず湯で季節の行事を楽しんでいる。	



自己評価および外部評価結果

事業所名

ナイスケア「樫の木」

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東ユニット)	ユニット名(西ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している利用者は自由に自分のペースで居室で休息をとっている。介助が必要な利用者や高齢者の方は休息時間を設けたり、本人の希望があれば対応している。	自立している利用者は自由に自分のペースで居室で休息をとっている。介助が必要な利用者や高齢者の方は休息時間を設けたり、本人の希望があれば対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している内服説明書は個別ケースにファイルされているが正確に把握している職員は少ない。何かあればその都度個別ファイルを確認している。内服の変更等がある場合は引継ぎノート、個別記録、口頭で周知している。	服用している内服説明書は個別ケースにファイルされているが正確に把握している職員は少ない。利用者の嚥下レベルに応じて、薬の形態を主治医に相談している。服薬ゼリーを使用している利用者もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のADLに応じて、生活に必要な家事手伝い等を職員と一緒にやっている。季節ごとのイベントを楽しんでもらえるよう企画している。利用者の希望を汲んでおやつ作り等もやっている。	利用者のレベルに応じて、洗濯たたみや布団カバーの交換等、職員と一緒に日常的に実施し、生活の中での役割を持てるよう支援している。気分転換の外出や買い物支援はコロナの影響で実施できなかった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年、定期的な買い物支援や外食、遠方への外出を行っていたが、今年度はコロナの影響により実施できていない。職員1対1での散歩やドライブのみ実施している。	例年、定期的な買い物支援や外食、遠方への外出を行っていたが、今年度はコロナの影響により実施できていない。職員1対1での散歩やドライブのみ実施している。	現状では、なかなか外出できないが、庭のイスに腰掛けて歌ったり、焼き芋・バーベキューをして、外気に触れ五感刺激の機会としている。歩行困難なケースでも、車いすを利用して、事業所の回りを歩き、短時間で外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる利用者は少なく、ほとんどの利用者は施設で管理している。管理できる利用者の場合、支払いを自分でやらせよう。今年度はコロナの影響により買い物支援を実施していない為、利用者が自らお金を使う機会がない。	お金を管理できる利用者は少なく、ほとんどの利用者は施設で管理している。お金の支払いを行う買い物支援がコロナの影響でできず。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話を掛けられるように支援している。また、手紙も本人の状態により、できる限り返信ができるよう支援している。	希望があればいつでも電話を掛けられるように支援している。また、手紙も本人の状態により、できる限り返信ができるよう支援している。職員からご家族へ連絡がある場合、極力本人と電話を代わり会話が持てるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁を季節に応じた飾りを利用者と一緒で作成し、展示している。テレビの音量は不快にならないよう調整。日差しが強い場合はカーテンを閉める等、利用者に確認を行いながら調整している。また、トイレの場所がわかりやすいように矢印を貼って工夫している。	季節感を楽しめる飾り作り等を職員と一緒にやっている。テレビの音量やカーテンの開閉も声を掛けるようにしている。適宜、換気を行い空調にも注意をしている。	利用者にとって使いやすい配置や馴染みな物が置かれ、壁には、ドライフラワーや利用者が作った作品が掲示されている。また、利用者にとって危険な物は、置かない様に努め、ソファには、ぬいぐるみ等を置き、くつろげる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの配席は利用者同士の相性や介助を要する利用者とのバランスを考慮した配置にしている。食事以外の時間では自由に好きな場所に座り、レクリエーション等を楽しまれている。	フロアでの配席は利用者同士の相性や介助を要する利用者とのバランスを考慮した配置にしている。食事以外の時間では自由に好きな場所に座り、レクリエーション等を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で使用していた馴染みの物の持参をお願いしている。仏壇を入居時に運び入れている利用者も多い。年末には戴いたカレンダーの中から自分の好みの物を選んでいただいている。	危険の少ないように居室内環境整備を行っている。写真や本人の作品や職員からのプレゼントを飾る等、温かみのある環境作りをしている。ご家族にも協力して頂き、本人の思い入れのある物を持参して頂くこともある。	各居室は、掃き出し窓からテラスに出る事ができ、布団を干したり外気浴も出来る。表札は、利用者の好みの番号にして、利用しやすくしている。ミニマト作りをしている利用者は、水やりのジョーロや天気予表を掲示して、その人らしい居場所づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープが設置されている。トイレの場所がわかりやすい番号を貼っている。各居室には表札を掲げ、自室や仲の良い利用者の部屋がわかりやすいようにしている。ポータブルトイレ利用者で立ちアップをレンタルしている人もいる。	施設内の手すりを必要に応じて使用してもらっている。起き上がりや立ち上がりに不安のある利用者の場合は介護ベッドの手すりも使用してもらっている。利用者のレベルに応じてL字バーへの変更も業者依頼している。		